

○相次ぐ国際的なテロ事案の発生を踏まえ、ICAO(国際民間航空機関)の国際標準に適合した航空保安対策を適切に実施。

国際的なテロの動向と航空保安対策の強化

米国同時多発テロ (2001.9)

航空機をテロの道具として利用した従来にない新たな自爆テロ



航空保安対策の抜本的強化

- ・強化コックピットドアの装備義務化(2003.11)
- ・空港場周フェンスの強化、センサーの設置等(2004.4)
- ・航空貨物「Known Shipper/Regulated Agent制度」運用開始(2005.10/内容の強化(2012.12))
- ・国際線搭乗ゲートでのパスポートチェックの実施(2008.7)
- ・国際線が就航する空港従業員等に対する保安検査の強化、空港のゲート管理の強化等(2013.7)

大西洋液体爆発物テロ未遂事件(2006.8)

液体爆発物を用いた自爆テロ未遂事件

国際線における液体物の客室への持込制限の導入(2007.3)

米国航空機爆破テロ未遂事件(2009.12)

化学物質を用いた自爆テロ未遂事件

国際線における旅客へのランダム接触検査の導入(2012.10)

今後の取組

空港従業員等に対する内部脅威対策の強化及び情報管理の徹底など、関係機関や事業者等に対する教育訓練・監査を通じて、それぞれの航空保安対策が適切に実施されるよう取り組んでいく。

我が国においては、国際テロの脅威が高まる中で、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催や訪日外国人の急増を踏まえ、万全の備えを速やかに進めることが喫緊の課題となっています。

このため、平成28年度からは、空港の保安検査を厳格化しつつ円滑化を確保できるよう、先進的なボディスキャナーの導入による保安検査の高度化等、航空保安対策の強化を推進します。

保安検査の高度化

- 保安検査の高度化の一環として、旅客が爆発物や銃刀類等を所持していないか効果的かつ効率的に検知するため、諸外国で導入が進んでいる先進的なボディスキャナーを2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会までに国内の主要空港に導入することとし、平成28年度は羽田・成田・関西及び中部の4空港に導入します。

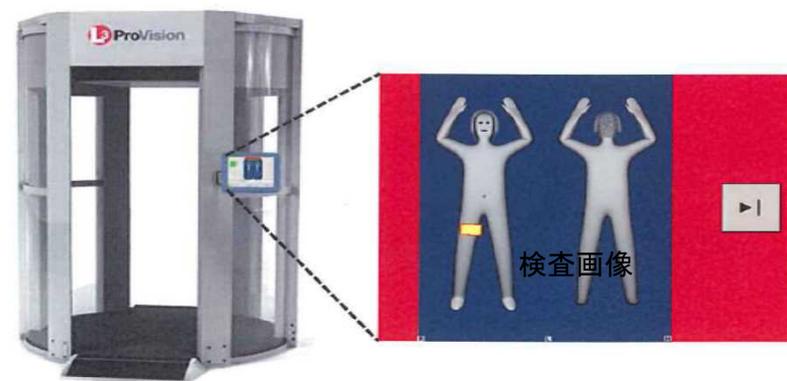


旅客の負担、検査に時間を要すること等が課題

< 現行の接触検査 >



< ボディスキャナーによる検査 >



現行の接触検査に代わるものとして、自動的に非接触で人体表面の異物を検出する装置
(プライバシー保護、人体影響も配慮されている)